

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
研究室隅の小籠や路の臺		梅二輪AM9時のミラノ行き	音を吸ひ雪深深と降り巾けり	忽 <small>と</small> 然 <small>と</small> と庭に鎮座の雪兔	落の臺コロポックルの見え隠れ	鏡割り上座の赤子ミルク手に	戦火埋め一乗谷の落の臺		待春の和氣に満ちたる画廊かな

1	乳齒抜サあしあごけなめしサ路のサ臺
2	敗戦国ともう言はざるもサ路のサ臺
3	サ路のサ臺コロポックルの目覚めがな
4	思い出と照りしフイン冬を越す
5	<small>ようづ</small>
6	中華街湯気の万を食べ歩く
7	吹雪く町鉄塔奥の法輪寺
8	雪日しまく遠くにニ函電車の灯
9	林道の隅の切れ端にサ路のサ臺
10	

清記用紙(番号3)

(米田よし)写

1	立春や漢 <small>あはこ</small> がつくる玉子焼
2	どんど爆 <small>は</small> ぜ人の輪一步二歩下がる
3	尼寺の精進料理路の臺
4	大雪に埋まる故郷の夕間暮
5	日向ぼこ予定さ一つ消しにけり
6	寒風 <small>かんかぜ</small> の小舟に紛 <small>まが</small> る泳跡 <small>えいせき</small> 波 <small>なみ</small>
7	大雪や足跡たどり投票す
8	啄木の思惟を鳴きぬ冬鳴
9	
10	

10	
9	
8	めくもりの 竹籠る 言の 甚不 息白し
7	ギター買う 勤機は 不純 た路の 葦室
6	都合よく 七るる 母や 春炬 燵
5	水 量の 少な き土 手に 梅開 く
4	踊み入 った 質問 の間 と 雪催
3	あんぐり と寒 明け て恋 心を 手放 す
2	手袋を 外して リリク で初 元一 ト
1	ポケット の中で 手袋 系ぐ 寒日 和

10	
9	
8	ア、ター、ショの風を奏矢びる冬、松竹
7	下リ坂雄株雌株とサ路の葦臺
6	混迷の世に井閑然と寒、昂
5	職人の掌の冷たさや鮎一貫
4	行灯の名残りはいずりニサ路の葦臺
3	大根引く上司の市場執務室
2	能怖しそれども採りに露のとう
1	サ路の葦臺 小神様の贈り物

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
息子より北月の高い嫁日脚伸ぶ	生命の幕間に憩心ふ枯野かな	雪しまき目指すは第二投票所		賑ほひは自息と消ゆ選挙選	凍滝の隙間を縫ふて水逃げる		寒厨や松まな板赤き指	チヴィタの天空の村春隣リ	寒杵や夜の静寂に研して

10	
9	
8	夕時雨手に咲く花やふきのとう
7	春浅し雨の包ひの猫来たる
6	雪知らぬ子の振り回す一センチ
5	池凍る木の葉も泡も閉じ込めて
4	押し活の詳細を聞く、浅き春
3	ぎょしりと野原のぼたん路の葦室
2	路の葦室産地と合わせて頼む酒
1	AIを話し相手に二月尽 <small>じん</small>

1	落の臺雄株と雌株があるらしい
2	A ^{エア} I ^{アイ} の寄り添ひ瞬時春手套
3	真青なる海に映ゆるや黄水仙
4	他愛ない話しも鍋の中で煮る
5	干物屋に立春の札伊勢参り
6	ほろ苦き義母の天ぷら落の臺
7	どなたから縁側ころがる落の臺
8	
9	
10	

10	
9	統合に消えし母校や露の臺
8	
7	陽に解けて池に水鳥戻りくる
6	心象の色濃きトスカートの薊
5	
4	知らさず知られぬ場所の露の臺
3	大阿蘇は微動だにせず冬銀河
2	郵便局兼ねる理容師の露の臺
1	山里に寄り添ふてをり路のたう

(秋 霜) 写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
棚奥の「春のめざめ」や露の蒼玉	おまたせ」と来たる老匠の木の葉の影	ふきんたう ^{かき} 廻け手 ^{えい} の味の小地球	梅咲きて隣家より香のおすそわけ		凍 ^こ 月 ^{づき} やゲストは近藤房之助	小春日の庭で昼めし町工場	悠久の光明日香のオリオンよ	早春やトラキチ「優勝」また吠える	

10	秘の事をあまた隠して サ路のサ臺
9	石段を唇取らる サ路のサ臺
8	
7	底冷えの奈良町 豆腐屋の灯り
6	春隣 葱のこぞって 天を突く
5	
4	戸締りの要らぬ山 里サ路のサ臺
3	春泥へ大きくピヒール ー歩
2	春寒や 熱気みなぎる 選 岩手カー
1	ひそやかに大地の取っ手 落のサ臺

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	漱石の朝はパン食菜の花心	路の臺まじ割れきらぬ柔き心		骨董市粉雪積もる絵かな	壺挿しの白し微笑み句草	山焼の肌雪化粧若草山		投票券握り進めし雪しまさ	結氷の透けて牛牯く稚魚の影

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
			春待ちぬ若の先なる海老フライ	手水舎の屋根に垂 <small>た</small> る花の餅	並木にてあちらを想ふ春隣	烟起こす我が身になれば寒 <small>な</small> 鴉	投票所迎えは小さき雪だるま	受験生父母同泊で令和の子	落の世臺信頼されてゐる力

(冬 陽) 写

10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
品書白木の墨塗書が躍る露の臺	山の辺の道ほつぽつと井路の臺	妣摘みし井路のたうなりけふの市	はは	轍埋めただ降る雪の静寂かな	めだち しじま	湯上りに仁王立ちして寒の水	餞別の封筒回リヒヤミンス	花園といふ馱のあり寒の月	春の風邪下宿の息子の細い声